

## 第二次新潟県再犯防止推進計画第2回策定委員会 議事概要

### 1 開催概要

- (1) 日時：令和7年11月19日（水） 14:00～15:30
- (2) 会場：新潟県庁 508 会議室
- (3) 出席者：委員7名  
新潟県再犯防止（社会復帰）支援会議構成団体 16 団体  
新潟県再犯防止（社会復帰）支援会議オブザーバー 2 団体

### 2 議事概要

- (1) 福祉保健総務課長挨拶
- (2) 事務局説明  
資料4「第二次新潟県再犯防止推進計画（案）」、資料5「第1回策定委員会意見反映一覧」、資料6「事前のご意見・ご質問」について説明。
- (3) 主な委員意見  
事務局説明後の意見交換における主な委員意見は以下のとおり。
  - 再犯率における初犯時と再犯時の犯行地域について、初犯が多い場合と再犯が多い場合とでは対応のアプローチが異なってくると思うので、そのようなデータの把握について検討いただければと思う。
  - 障害者を雇用した際の支援や税制上の優遇など、協力雇用主への支援について何らかの措置が取れないかと感じている。
  - 更生を支えてくれている更生保護女性会や BBS 会は先が細っているため、そこについても文言として取り上げていただきたい。
  - 再犯者自身が福祉支援を望まない場合もあり、本人にどう理解してもらうかは課題だと思う。医療と福祉の連携が重要な一方で、医療がメインではないという難しさもあり、医療の方にどう協力を仰いでいくかという課題がある。また、重い精神障害を抱える人を受け入れる仕組みはできてきているが、発達特性や知的障害を抱える人の受入体制ができていないので、そこに対処する必要がある。
  - 刑務所や少年院などの施設に入っている間は周りからのサポートがあるが、一旦施設を出てしまうとサポートが難しい。また、関係機関の連携についても、当事

者が施設にいる場合は関係機関の連携ができるものの、例えば地域包括の中でたまたま引がかかったという場合についてどうサポートしていくのか課題がある。

- 弁護士会で支援者ホットラインというかたちで支援者支援を行っている。実際の支援の現場で困っている支援者の相談を弁護士が受けるといったことを行っており、週に何件も申込みがある。このように、実際に現場で働いてる支援者は一人で課題を抱えてしまうことがあると思うので、そういう方も含めてどう具体的に連携していくのかという課題がある。様々な業種の方の相談、研修や顔つなぎなどにより、気軽に相談できる関係を構築することが重要だと思う。
- 地域の中で支援が必要な方を支える仕組みとして重層的支援体制整備事業があるが、それをどう活用するかは市町村の大きな課題になってくると思う。
- 地域の住民の方々に再犯防止について知ってもらうことが大切ではないか。
- 県の退職予定者セミナーにおいて、保護司制度についての説明の機会を設けていただいているところであり、できれば市町村の退職者セミナーにおいても同様の機会を設けていただければと思う。また、(現役自治体職員の保護司活動の従事に対して)職専免をもらえるとありがたい。
- 再犯防止における行政や福祉団体などの関係者の連携の輪に、大家や管理会社、居住支援法人を加えていただきたいと思う。また、各市町村における居住支援協議会の設置については、まだ道半ばといったところだが、設置の動きが広がれば、計画ができ上がった後の進捗管理において重要なポイントになると思う。
- 今回の計画で良い点は、施策番号と担当課が記載されていること。これにより、市町村などが相談などを行う際のガイドブックとして使えるので、見えないネットワークを作る上で重要なポイントになると思う。小規模な自治体では専門家もおらず相談が難しい場合がある中でそういったネットワークが重要になるので、この計画を広く配布していただきたいと思う。また、基礎自治体の連携にあたっては、広域自治体である県がコーディネーター役を務めると良いのではないかな。
- 今後の進捗管理にあたっては、評価というよりも、むしろ見えないネットワークを構築していくことが重要ではないか。パフォーマンスも大事だが、それとは別に関係者間のつながりをうまく作っていくことに注力していただければと思う。